

風水譚

第5号



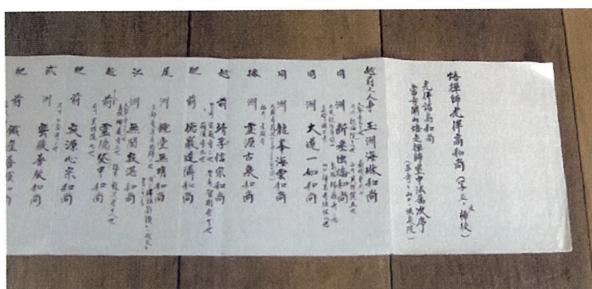
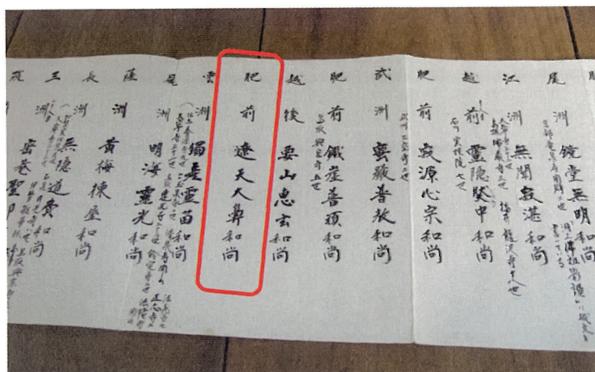
蒙談会発行

木食上人遼天

もくじきしようにんりょうてん

遼天上人は享保二十年（一七三五年）巖井郡東山浜横沢（現岩手県南西部）に生まれ十六歳で南の気仙沼の補陀寺で出家しました。十九歳で諸国行脚に出て越後の金毛和尚に付いて五年間修行しました。さらに北陸、山陽、山陰を巡歴して長門国湯本の曹洞宗大寧寺の春海和尚に二年間随身しました。その後九州に渡り豊前（現大分県）や長崎天草の寺や高僧に付いて修行しています。木食戒を授かったのは豊前での事と云われています。

しかし今回の大寧寺資料では「肥前遼天大鼻和尚」となつていて、豊前、肥前の修行のあとの大門と思われます。九州で木食戒をさ



山口県長門市大寧寺入門帳（同寺執事様より拝見）

八田 ひろいち

ずかったあとの入門ではないかと拝察します。

木食（一般的には木喰と表す事が多い）とは魚、肉は勿論、五穀（米、麦、粟、稗、黍）を断つて「木の芽や実」のみを食す事である。

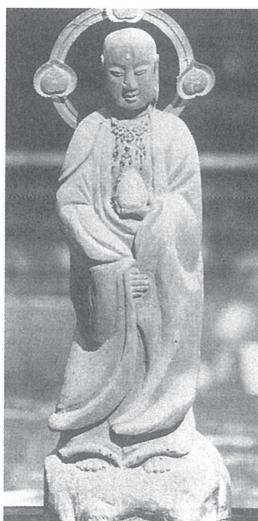
木食戒とは（一）火食しない（二）五穀断ちして回峰行を行う（三）梵字の読み書きと解釈を行う（四）石や木の彫刻を体得する

（五）和歌を作り詠み方を会得する（六）勤行や作務を行う。等々、体力と意志の力も超えて回国遊行する僧が挑む極めて厳しく過酷な修行です。

木食上人は過去何人も居たが、有名なのは木食応其（天文五年一五三六年—慶長十三年一六〇八年）で高野山で出家し、京都の大仏殿建立に尽力して高野山の復興につとめ興山上人と呼ばれました。その後では木食五行

や行道とも号した甲斐出身の木食明満（享保三年一七一八年—文化七年一八一〇年）が居ます。全国で微笑仏を彫刻し、山口県にも彼の彫った仏像が多く遺されています。いずれも真言系の木食上人である。

遼天さんは明和元年（一七六四年）に郷里



遼天作 地藏菩薩木像



に帰り補陀寺九世の住職となりました。その後、氣仙沼の觀音堂の建立や、六角堂の修築を手掛け、明和七年（一七七〇年）地頭鮎貝志摩守に願い出て天満宮（現天神山北野神社）を建立しました。神仏習合時代のことです。明和九年（一七七二年）隠居して御宮の下に自在庵を建て、自らの号「遼天自在庵」としました。遼天和尚は菅原姓で菅原道真公を篤く敬い、菅公と同じく觀音信仰者でもあります。天満・自在天と觀自在菩薩から「自在」と号したそうです。また、遼天大鼻とも日東木食遼天とも号し、曹洞宗では唯一の木食上人です。そこでは禪木食自在坊とも呼ばれています。



宮城県氣仙沼市天神山北野神社 遼天上人再興



遼天自刻像（下方方立派な鼻）

寛政八年（一七九六年）富士山に登拝し、

ました。

山頂の金明水を汲み帰り、墨を磨り、大乗妙典（法華經）を人々と共に一字一石の大写経を淨行しています。北野神社側の背後に富士の小山を築き、四方に經石を埋納して氣仙沼町内の安泰を祈念しています。

この地方は数十年に渡り地震、火災、飢饉が続いて、町内の人々は困窮しており遼天和尚に懇願して富士の小山が築造されたのでした。

また幾度となく国内行脚の折に彫み置きした神仏像の数は多く、研究者の注目する所となり写真集や研究書が出ています。遼天上人の木食仏が山口県内に残つていなか興味あるところです。

第二次東北支援の後、当会にも富士小山を築き、東日本の復興祈願と地域の安寧を願い



天神山北野神社の小富士



気仙沼にならって山口の当地に築造された小富士

参考資料

「日東木食遼天資料」

天神山北野神社ホームページより

「宮城の木食上人」

みやぎ木食会 熊谷幹夫 津島 久子

(有)平電子印刷所

「木食自在菴遼天」

氣仙沼地域先人顕彰協会会长

小野寺 信雄

「防長の微笑佛」

マツノ書店 内田 伸著

遼天年譜

西暦	年号	(年号令)	遼天関係事項	参考事項
一七三五	享保二〇		磐井郡東山浜横沢に生まれる	
三六	元文二〇		（推定）父死没8・9	
四一	寛保		（推定）母死没12・16	
四四	延享			東山大原町火災二三三戸焼失3・19
四八	寛延			ロシヤ船出没ミハイル号網地島漂着
五一	宝曆			大震
五五			日野屋仙台大町に開店	
五四	三二元三二元四	一一〇九八七六五四五三二一	仙台藩主吉村隱居六代宗村襲封	
三二〇一九八七八六五四五三			仙台藩諸士儉約令	
二二〇一九八七八六五四五三			仙台大火・北山・二日町・北二番丁・堤通りまで六二町	
一一〇九八七六五四五三二一			三四六軒焼失2・22	
一一〇九八七六五四五三二一			風雨洪水	
一一〇九八七六五四五三二一			千厩町火災二三九戸焼失8・3	
一一〇九八七六五四五三二一			藤沢町火災一〇六戸焼失3・16	
一一〇九八七六五四五三二一			津波6・2	
			出家	
			諸国行脚に出る 横巣寺に隨身	
			小山五右エ門月立村肝入となる	
			奥州大飢饉	

節儉令・上民心得二四ヶ条定める

鮎目志摩奉行職 9

豊前國蘭凌和尚に隨身

長崎・天草行脚

六角堂落慶・八世梁有智晉示寂 6・15

松前に渡る

補陀寺九世住職となる

長老となる 胶月庵再建

補陀寺庫裡建造

参内

天満宮造宮

江湖法会 隠居自在庵と号す

補陀寺一〇世俊禪住職となる

大旱魃で不作 儉約令

大川洪水 おかげまいり流行

田沼意次老中となる

大川洪水 おかげまいり流行

大川洪水 おかげまいり流行

大川洪水 おかげまいり流行

大川洪水 おかげまいり流行

諸国疫病流行

氣仙地方前年に続き疫病患者一二、四七三人 死者一、一〇七人

大川洪水 おかげまいり流行

冷氣凶作

天候不順凶作

長雨 大雨 洪水 仙台大火一、五五三戸焼失

長雨三六万四千二百石損失 (領内) 小山五右エ門没 (71)

大雨洪水二八万石損失 (領内) 洪水

大雨洪水二八万石損失 (領内) 洪水

天明											
寛政											
享和											
三	二	元	二	一	〇	九	八	七	六	五	四
六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八
示寂11・12	志摩石碑建立	六角堂修理・滝上山境土手構築・鮎貝	(寛政二三) 松源院位牌殿建立	客殿建築	大乘妙典一字二石塚建立	江戸に自在庵建立	血脈伝授2・15	滝ノ上山に天神社造営 (楞嚴寺二世瑞天和尚寂)	藩主九代周宗襲封	藏王山噴火	豊作 林子平蟄居 松前藩九代章広襲封
									仙北百姓一揆		畠不作
											菅原真澄七月八月氣仙沼滞在
											米倅高騰 松平定信老中 改革はじまる
											古川古松軒巡見使隨行 減収三一万九千石 クナシリ、メナシ地方アイヌ蜂起
											鮎貝志摩卒4 天明大飢饉はじまる
											長雨領内五五万二千石損失 浅間山噴火
											八月天神社館野坂下へ引移願許可

(仙台市歴史民俗資料館 資料より)

伊藤博文公と宮島

—その精神世界を探ねて（第一部）—

柴田眼治



2010/04/25 11:14:41

安芸の宮島。大鳥居と厳島神社、推古元年（593年）創建



2010/07/25

宮島の神のお使いの鹿

そうだ。「広島に大本営があつた時分に博文が文武百官を率いて社前で撮つた」と云う写真がロビーに飾つてあつた。日清・日露の役で政治交渉等のため半島や大陸を往復する度に宮島に参拝して十回に及ぶと聞いた。

明治四十一年八月十三日に厳島明神で「あきらけき神の御前に告けまをす赤き心はしろしめすらん」と和歌を詠んでいる。（女婿の末



岩惣ご主人と

（松謙澄の著書より）近代國家創生のため初代内閣總理大臣の激務の合間、社寺や大自然を巡つて清遊保養して心身のリフレッシュをしていた様だ。

厳島神社の主祭神、市杵島姫命は海上交通守護の神であつて併祀の田心姫命と湍津姫命と共に瀬戸内や玄界灘の海を守る三女神である。この神を「斎き」と云ふので「伊都岐島」と云われたものが「嚴島」と呼ばれる様になつた。



厳島神社社殿 仁安3年（1168年）平清盛が現在の形式に造営



社頭に立つ博文と文官、武官や神職



博文お手植えの九本松
背後は龜居山放光院大願寺

お宮西回廊の出口側の大願寺のご本尊は弁才天と薬師如来である。これは、近江國竹生島、相模國江の島に並ぶ安芸國嚴島の日本三弁天の一つである。弁才天は神仏習合時代には理財の功徳によつて厳島神社の主祭神市杵島姫命と同一視されていた。明治の神仏分離令でご本殿に祀られていた八臂弁才天は大願寺本堂へ遷座し秘仏として祀られている。毎年六月十七日がご開帳である。この本堂の正面の桁の上に「嚴島本願大道場」と

が偲ばれる。
た立派な松である。彼の弁才天への崇敬ぶり
廃仏毀釈によってこの靈域が荒廃して久
しく弥山頂上の社寺が見る影も無くなつて
居たのを嘆いた彼は、明治三十九年大聖院か
ら頂上までの参詣道の改修に多大の自己資
金を投じた。同志数名で行なつた弥山本道の



大願寺の博文謹題大扁額

力書してある大
扁額は博文直筆
である。又前庭
の大きな「九本
松」も博文お手
植えの松として
今なお青々とし
て育つている。

根元が一つで九
本の幹に分かれ



現在は下り坂は利用する人々が多い。登りは紅葉谷ロープウェーから獅子岩駅へ達する。



弥山本道修復顕彰碑
(大聖院門前)
山縣有朋題字による
「藤公修鑿碑」末松謙
澄撰夏秋十郎著の大き
い石碑である



博文や有志が大修理した弥山参道



渓谷に添って頂上へ登る石段

大修理は非常な難工事であつた様だ。博文没後この大事業の顕彰碑を末松謙澄らは大聖院の山門下の本道の起点に建てている。

当時は今のロープウェーは無く皆この参道を登つて、弥山山上の御山神社や虚空蔵求聞持堂、靈火堂や三鬼堂をお参りして、山頂に辿りついた。博文は山頂からの風光を「日本三景の一、宮島の真価は頂上からの眺望にあり」と讃嘆したとされている。



弥山本堂虚空蔵求聞持法の道場



2010/09/05

ご本尊は虚空蔵菩薩

さて、大同元年（八〇六年）弘法大師空海は唐からの帰途靈気を感じて弥山に登つた。そこで虚空蔵求聞持法の百ヶ日の護摩供養を修した。さらにその護摩の灯を常灯明とした。これは「不消の灯」として千二百年後の今でも松の大木に伝灯されて燃え続けてい。昭和には広島平和祈念公園の灯火の元火になり原爆の物故者を供養し永久に回向している。



「能満諸願大道場」博文謹題の大扁額



再建された靈火堂

今は弥山本堂と呼ばれている弥山虚空蔵堂の正面に博文直筆の大扁額が「能満諸願大道場」と大書してある。これは「あらゆる願いを能く満たし叶える」という虚空蔵菩薩の功德の大本願を表している。この御堂と靈火堂の間の階段を登ると直ぐに山上三鬼堂に達する。博文はここにも直筆の「三鬼大権現」の額を奉納し篤く信仰したが、それは現



弘法大師の修した護摩の火が燃え続ける「不消の火」、大釜の湯をのむと寿命が延びるという。



階段のつきあたりが三鬼堂



伊藤博文の書「三鬼大権現」の掲額



山頂の巨石の彼方は360度の絶景瀬戸内の島々と海が光る

在では麓の大聖院の靈宝館に安置している。麓の真言宗の大聖院の摩尼殿にも三鬼大権現が祀られている。

更に博文と虚空蔵菩薩との縁を調べてい
く内に以下の事が解つた。我が国では奈良時
代頃から生まれ年の干支と守り本尊の守護
思想が信じられていているが、丑年と寅年生
まれの守護仏は虚空蔵菩薩であり、知恵と福
徳を授けると云われている。博文は天保十二
年（一八四一年）の丑年生れである。

明治二十六年頃、鎌倉八幡宮の箱崎宮司か
ら南北朝時代の立派な虚空蔵菩薩像が博文
に贈られた。これは昔、熱海の温泉寺（藤原
藤房公所縁）にあつた尊像で後に所有した同
宮司に永い間「譲つて欲しい」と懇望してい
た願いが叶つたのである。

その像の元來の所有者であつた藤原藤房
公は万里小路家を継ぎ、後醍醐天皇の側近を
務めていた。建武の中興の論功行賞の不当さ
を直言したが容れられず、失望して南朝を去

つた。忠臣楠正成父子の討死後、藤房公はそ
の冥福を祈つて、この像を小厨子に納め、頸
にかけて諸国の靈場を廻歴した。外厨子は杉
板製で、その中に銅製の小厨子に菩薩像を安
置してある。背後の坂に大楠公の命日「丙子
五月二十五日」小楠公は「己丑正月五日」と、
「扶桑禮場 奉經供養、文和二曆遁倫隱士、
正成父子の忠死菩提の為」「侃山拝」^{かんざん}と刻して
あつた。侃山は藤房の号である。

楠正成の両親は子がないため信貴山朝護
孫子寺の毘沙門天に百日詣での願かけをし
て授かった御子である。寅年の寅月、寅の日
の寅刻に誕生し、毘沙門天の申し子とされ、
その別名多聞丸と命名された。寅は多聞天の
お使いである。後に、正成は藤房の娘（妹と
も）の滋子を娶つた。子の正行は幼名をやはり
多聞丸と云う。藤房公は南朝の忠臣正成父

子の追福菩提の為に寅年・丑年の守り本尊である虚空蔵菩薩像を造らせたと思われる。



藤公の念持仏「虚空蔵菩薩」像
(光市東荷の伊藤公資料館)

し供養して貰っている。禅師は「この尊像は京都嵐山の法輪寺のご本尊と同体であつて、右手の利劍は智、左手の宝珠は福を表している」と申された。博文はこの尊像を楠公父子の誠忠、藤房公の苦忠を仰ぐと共に自分自身の守り本尊として鍛子の袋に入れて常に携帶していた。ハルピンで暗殺された時もこの尊像を手提げ鞄に奉持していた由である。現在この念持仏は博文没後、数奇な運命を辿つて博文生誕の地にある光市東荷の伊藤公資料館に安置されている。

博文はこの像を真言宗の高僧雲照律師に改めて開眼してもらい、さらに二十一度の供養をして貰った。その後、尊像の右手の宝剣が無くなつた為明治四十年には永平寺六十四世の森田悟由禪師に懇願して宝剣を新造

博文と楠正成のかかわりについては、博文は二十八歳の時、初代兵庫県知事に任命され、勅許を得て正成公を祀る神戸湊川神社の境内の整備に尽力したときから始まつてゐる。しかし博文は兵庫県知事になる前から湊川神社に参り、楠正成の尊王と忠節に深く感銘

し、よく理解していた。

それは彼の師吉田松陰先生の影響による。

水戸光圀公は楠正成を「武士の鑑」^{かがみ}と称揚、「南朝の大忠臣」と大日本史に記述した。又荒れていた正成の墓を

建て直し、明の遺臣

朱瞬水に事績を撰文させて、自らは「嗚呼忠臣楠子之墓」と刻書した。それにより江戸へ参勤交代する諸大名は駕から降りて湊川神社の楠子之墓を参詣する様になつた。湊川神社は尊王思想の源泉となつたのである。当然吉田松陰先生も篤く敬い二回以上参拝したと聞く。門下生も皆、師に倣つた。長州藩では藩校明倫館で毎年楠公祭を行つていた。博



湊川神社神門：神戸市中央区多聞通



湊川神社殉節の地
伊藤博文奉獻の石灯籠
「越智宿彌博文(おちのすくねひろぶみ)」
博文の父方の出自の姓を刻んでいる。



嗚呼忠臣楠子之墓
湊川神社境内

おわりに

一、博文が愛した宮島は彼の生誕の地、熊毛

郡東荷村（現山口県光市）から近く幼少期からよく聞いていた神の島だつたろう。主君毛利氏の始祖元就が厳島で陶晴賢を討つてから西国の霸者となつた歴史からも特別な思い入れのある島だつた。

一、三鬼大権現 の法の修行が続けられている。

あまり聞かない尊名であるが、空海上人が唐から帰朝した大同元年（八〇六年）

に宮島弥山々上で虚空藏求聞法の百日護摩を焚いた時、勧請したと伝えている。

時眉鬼神 知恵を司り、本地は虚空藏菩薩

追帳鬼神

福德を司り、本地は大日如来

魔羅鬼神

降伏を司り、本地は不動明王

博文はここにも大額を掲げて篤く信仰した。元は三鬼神は奥宮に祀られていた。

一、弁才天

インド、ヒマラヤの雪解け水は清冽な河水が抜群によくなるという。以後、空海は万巻の経書を全て記憶出来た。そして唐に渡り密教の秘法を授かるのである。現在でも室戸、宮島、高野山などで、二

インド、ヒマラヤの雪解け水は清冽な河水となり山から下だる。経文を称えるように、妙なる音楽のように、さらに弁舌爽やかな水音に聞こえる。「サラスヴァティ」として神格化され、弁才天と漢訳さ

れた。この神の利益によつて財をなすことを得るので、弁財天と呼ぶようになつた。

厳島は瀬戸内海の穏やかな波が打ち寄せる音。

竹生島は淡水の打ちよせる波音。

江の島は太平洋の荒海の波音。

等々、水音を象徴化している。波の打ち寄せる音は $1/f$ ゆらぎの波動で人を癒すと云われる。

一、宮島名物は杓子であるが、これは弁財天の弾いている琵琶を模した形と云われている。又「もみじまんじゅう」は博文が明治三十九年の秋の日、茶屋で一休みしている時、お茶を運んできた女の子の手を見て、「紅葉のように真っ赤な可愛い手だのう」と云つたのを聞いた岩惣の

当時の女将が出入りの職人にもみじ饅頭を作らせたのが大ヒットのはじまりと現女将から聞いた。



紅楓閣の額 春畝山人筆



宮島の名旅館「岩惣」
(同館発行案内冊子)



もみじ饅頭ともみじ最中と抹茶セット



博文愛用の岩惣の応接机

一、弁財天を祀る大願寺は元来厳島神社や宇佐八幡宮、箱崎八幡を普請修理する奉行職であった。昔は人々は大野から渡船で大願寺裏の浜に着岸し上陸していた。参拝者は寺の側の湯屋の大風呂で身を清めてから厳島神社へお参りし更に弥山本道を登つて頂上まで参った。お宮への今の中口が唐破風門になつて古い手水石があるのはこちらが入口だつた名残である。慶応二年の第一次長州征伐に勝利した長州側は広沢真臣、井上馨と幕府側は勝海舟が会見し講和談判をした。その舞台が大願寺の奥書院である。



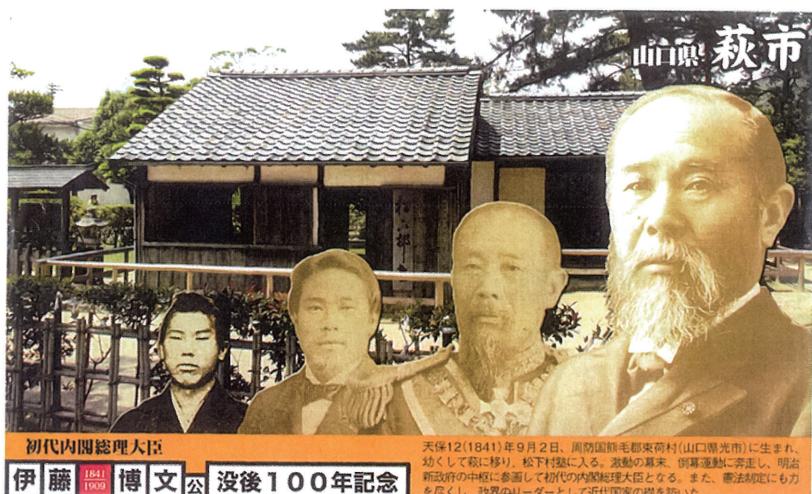
西回廊出口、昔は嚴島神社への入口、唐破風門
がその名残り、背後に千畳閣や五重塔が見える

一、博文は伊勢神宮と湊川神社をもつとも敬い、皇太子（大正天皇）が、ご病気の時に伊勢神宮に「精神を込めて満腔の熱誠をもつて祈つた。」と言っている。生死も知れぬ生涯だったので彼の敬神崇仮の心は計り知れない。

一、博文は近代国家創生のため若き志士時代から常に身命を賭して活動した。長州フアイブ時代を皮切りに何回も洋行してアーヴィング時代を皮切りに何回も洋行してアーヴィングしたので欧米事情は当時の誰よりも知識していた。新旧の知識を体得した彼は晩年まで全身全霊を近代國家の創造に捧げ尽くした。初代内閣総理大臣となつて数多くの政務に没頭した。博文は満州に行く前「自分は今まで生きてきたのが不思議な位だ。何度も命を狙われたし、

落としそうにもなつた。しかし自分は國家のために生命を度外視しているので死ぬ事は何とも無い。」と話している。木戸孝允は「剛凌強直（強く厳しく正直）の人と評した。この性格は彼の精神世界を支えた神仏の守護にも大いに力があつたと推察する。松陰先生は門下の俊輔をかわいがり「この子周旋の才あり、学稚きも僕之を愛す。」といわれた。その後大いに努力をかさね和洋の才を開花させるのである。

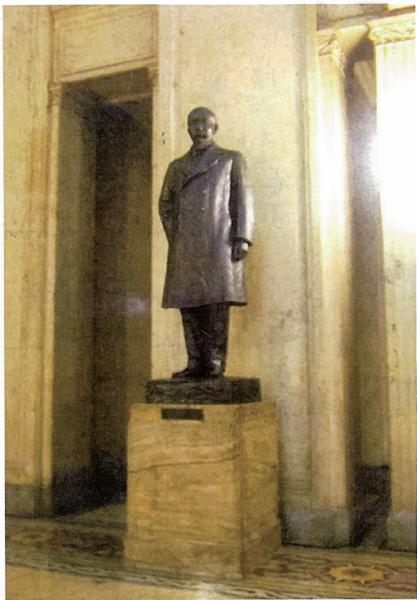
博文は自らの予知していた通り満州（ハルピン）で亡くなつたが彼の念持仮の功德によつて神仏のおられる大世界へと旅立つて行つたのである。



没後100年記念萩市製作「伊藤博文シール」(青年期から晩年期まで)



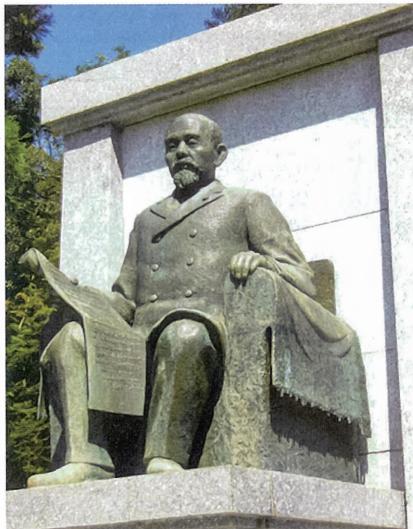
参議院会館前の伊藤博文銅像



国会議事堂中央広間に建つ初代内閣総理大臣伊藤博文像



山口県萩市報恩寺境内の伊藤博文供養一
石五輪塔
戒名「文忠院殿博譽古林春畝大居士」と
刻名してある。平成21年9月21日建立



光市伊藤公記念館の丘の上に建つ
「憲法解纏の像」昔の伊藤公神社趾
筆者の仲人である河内山賢祐氏作

参考文献

「孝子伊藤公」末松謙澄著 マツノ書店
〔伊藤博文〕明治日本を創った志士

古川薰著 (株) 小峰書店

〔伊藤博文〕近代日本を創った男

伊藤之雄著 (株) 講談社

〔伊藤博文〕瀧井一博著 中公新書



初代内閣総理大臣の供養塔に詣でる青年。
日本の未来を担う。



厳島大鳥居にかかる夕陽



厳島大弁財天「厳島本願大道場」伊藤博文謹題

伊藤博文年譜

1841 天保12年	9月伊藤博文生
1857 安政04年	9月来原良蔵の紹介で松下村塾に入り、吉田松陰の教えを受ける
1859 安政06年	10月27日吉田松陰刑死。同29日伊藤、同志とともに、松陰の遺骸を小塚原回向院に埋葬
1862 文久02年	12月12日高杉晋作らと英國公使館焼き打ち。同21日山尾庸三とともに、国学者塙次郎を斬殺
1863 文久03年	3月士分によりたてられる。5月井上諱多（井上馨）、野村弥吉、遠藤謹助、山尾庸三と英國へ密留学。9月23日ロンドン着
1864 元治01年	3月伊藤と井上、ロンドンを発し、帰国の途に着く。6月10日伊藤と井上、日本到着。7月長州藩兵、京都諸門で幕府軍と交戦（禁門の変）／幕府、長州藩追討の勅命受ける（第1次長州征討）。8月四国艦隊、下関砲撃
1866 慶応02年	1月薩長同盟。3月すみ子夫人と離婚。4月下関城ノ腰木田久兵衛長女梅子と結婚。同22日高杉とともにイギリス留学許容される。長幕関係緊張を受けて、外遊断念。6月5日、幕府、諸藩兵に対して長州進軍を命ず。第2次長州征討。8月グラバーとともに上海へ行き、汽船を買い入れる
1867 慶応03年	1月9日明治天皇践祚。10月14日大政奉還。12月9日王政復古の大号令
1868 慶応04年 9月8日より 明治01年	1月3日鳥羽伏見の戦い。同10日外国事務掛仰せ付けられる。新政府出仕の初め。3月14日五カ条の御誓文宣布。5月27日兵庫県知事に任せられる。8月27日明治天皇即位。9月8日明治と改元。11月姫路藩主酒井忠邦の版籍奉還の建議を耳にし、版籍奉還の建白
1869 明治02年	1月国是綱目（兵庫論）を捧呈。6月版籍奉還。7月新官制發布。大蔵少輔に就任
1870 明治03年	11月芳川顕正、福地源一郎、吉田二郎、木梨平之進らとともに、財政幣制調査のため渡米（～71年5月9日帰朝）
1871 明治04年	5月新貨条例制定。伊藤の建議によるわが国最初の貨幣法。7月14日廃藩置県の詔書済発。11月12日岩倉使節団、出港。12月14日サンフランシスコにて日の丸演説
1872 明治05年	2月12日伊藤、大久保とともにワシントン発。条約改正談判の全権委任状を下付されるため、日本に一時帰国。6月17日伊藤と大久保、ワシントン着。同日、条約改正談判中止を決定。7月ロンドン着。12月3日改暦、この日が明治6年1月1日となる
1873 明治06年	3月9日ベルリン着。同11日ドイツ皇帝謁見、ビスマルクと会見。5月

	11日ローマ着。先発帰国の木戸、大久保に宛ててイタリア文化を嘆賞。
1874 明治07年	9月13日岩倉具視らとともに帰国。10月24日西郷隆盛、参議を辞職。同25日参議兼工部卿に就任。11月19日政体取調を命じられる
1875 明治08年	1月板垣、副島ら民撰議院設立建白書を左院に提出
1877 明治10年	1月大阪会議(～2月頭)。4月漸次立憲政体樹立の詔。6月20日浅草本願寺で地方官会議開院。7月5日元老院開院
1879 明治11年	2月西南戦争勃発。9月24日西郷隆盛自決し、西南戦争終結
1881 明治14年	9月教育議を上奏、同29日教育令発布
1882 明治15年	1月伊藤、井上、大隈、熱海にて会談。3月参議大隈重信、英國流議院内閣制を主張する憲法意見書を左大臣有栖川宮熾仁親王を通じて、密奏せんとする。6月井上毅、岩倉に憲法意見書を提出。プロイセン流欽定憲法主義を説く。7月30日天皇、開拓使官有物払下を聽許。10月12日明治14年の政変。大隈、辞表を提出し下野。官有物払下令の取り消しと国会開設の勅諭
1883 明治16年	3月14日憲法調査のためヨーロッパに旅立つ
1884 明治17年	8月3日伊藤帰国。同6日参内して憲法調査の経過を奏上
1885 明治18年	3月宮中に制度取調局設置。伊藤、宮内卿に就任。7月華族令制定
1886 明治19年	2月伊藤、清国に派遣さる(甲申事変の善後処理)。4月18日伊藤と李鴻章の間で天津条約調印。12月内閣制度創設。参事院と制度取調局廃止し、内閣法制局設置
1887 明治20年	2月公式式公布／各省官制の制定。3月帝国大学創設。6月伊藤、皇族・大臣・勅任官・有爵者に夫人の礼服の洋装化を通達
1888 明治21年	3月国家学会創立。5月ボワソナード、条約改正反対意見。7月谷干城、条約改正案について政府批判書提出、同26日農商務相辞任。井上外相、条約改正会議の無期延期を各国に通知。9月17日井上、外相辞任(翌年2月大隈入閣まで伊藤が兼任)
1889 明治22年	4月28日枢密院開設。伊藤、首相を辞任し初代議長に
1890 明治23年	2月11日大日本帝国憲法発布。同26日華族同方会にて「憲法ニ関スル演説」(『華族同方会演説集』第5号)。同27日「各親王殿下及貴族ニ対シ」演説。6月『憲法義解』刊行。12月24日内閣官制公布
1891 明治24年	11月25日第1回帝国議会開会
1892 明治25年	5月11日大津事件。9月21日山口で立憲政治のあり方について講演
1894 明治27年	1月伊藤、吏党の大成会を基盤として政党結成を画策。天皇の反対で実現せず。8月第2次伊藤内閣成立
1895 明治28年	8月日清戦争勃発
1896 明治29年	4月清との間に下関条約締結。独仏露三国干渉。翌月、干渉受諾す
	8月31日伊藤首相辞職

1898 明治31年	1月第3次伊藤内閣成立。6月10日衆議院解散。閣議で政党結成の意思を表明。同14日伊藤、帝国ホテルに実業家を招き、新政党創設の発起人会を開く。同22日自由・進歩両党合流し、憲政党結成。同24日伊藤、元老会議で、憲政党に対抗して政党の結成を唱える。山県有朋らの反対。伊藤、即日参内し、首相の辞表を上程。合わせて勲位爵も奉還せんとする。後任に板垣・大隈を奏薦。同30日隈板内閣成立。8月19日長崎発、清韓漫遊に旅立つ。同25日韓国の大漢城に入り、高宗と会見。9月14日北京に入る。同15日慶親王、康有為らと面談。同20日、光緒帝に謁見。同21日西太后、戊戌政変を起こし、康有為ら失脚。梁啓超、伊藤の指示で日本の軍艦に乗り、日本に亡命。同29日北京発。天津へ向かう。10月2日天津より上海へ（5日着）。同13日漢口へと発つ。張之洞と会う。同19日南京へ赴き、劉坤一と会見。同31日大隈首相、辞表提出。11月伊藤、大隈内閣総辞職を受けて、急遽帰国（7日長崎着）。同8日山県内閣成立
1899 明治32年	3月府県制・郡制の改正／文官任用令改正と文官分限令・文官懲戒令制定。4月政党結成の準備工作として、立憲思想の普及のために全国遊説に出かける。同9日長野に向け出発。同13日長野より帰京。5月8日関西・九州方面への遊説に出発。7月17日改正条約施行、内地雑居始まる。8月24日宮中に帝室制度調査局設置。総裁に伊藤就任。9月21日全国で府県会議員総選挙開始。10月5日清國より康有為の件につき、李盛鐸使節來訪。同14日北陸遊説に出立。12月萩報恩寺墓地改葬。2月選挙法改正成立。山県系官僚閥の抵抗により、有権者層の大幅な拡大阻止される。7月28日伊藤、伊東巳代治に新党の名称として、立憲政友会を明かす。8月25日芝紅葉館で立憲政友会創立委員会。9月15日立憲政友会発会式。創立に先立ち、伊藤、帝室制度調査局総裁辞任（14日）。後任に副総裁土方久元就任。10月19日第4次伊藤内閣発足、陸・海・外相以外は政友会員
1900 明治33年	5月2日伊藤首相、閣内不統一のため辞表提出。6月第1次桂内閣成立。7月11日大磯発して関西遊説。同13日神戸で政友会兵庫県支部発会式。同15日岡山支部発会式。同18日山口県支部発会式。同20日若松製鉄所見学。同22日帰磯。9月18日エール大学より名誉博士号授与のため渡米。12月2日伊藤、ロシアのラムスドルフ外相と日露協商につき交渉開始。同7日元老会議、日英同盟修正案を承認
1901 明治34年	1月日英同盟、ロンドンで調印
1902 明治35年	5月政友会議員総会。予算案をめぐる総裁伊藤と政府との妥協案を承認。これに不服の脱党者相次ぐ。7月13日伊藤、枢密院議長に就任（これに合わせて政友会総裁を辞任）。帝室制度調査局総裁、皇室経済
1903 明治36年	

	会議顧問にも復任。調査局副総裁に伊東巳代治。8月奥田義人と有賀長雄、伊東の推薦により帝室制度調査局御用掛に就任
1904 明治37年	2月10日ロシアに宣戦布告（日露戦争）。3月7日韓国皇室慰問の特派大使に任命される。同20日韓国皇帝に謁見。5月31日本政府、対韓施設綱領を決定。8月第1次日韓協約締結
1905 明治38年	4月韓国保護権確立を閣議決定。9月5日ポーツマス条約調印。11月韓国皇室慰問のため渡韓（8日釜山着）。実際には韓国皇帝に日韓協約調印（韓国からの外交権の剥奪）を迫る。同17日第2次日韓協約調印を大臣たちに強請。12月統監府および理事庁官制制定。同21日初代韓国統監に任せられる
1906 明治39年	1月第1次西園寺内閣成立。載沢率いる清国視察団が来日。約1ヵ月滞在。この間、伊藤博文との会談、金子堅太郎や穂積八束からの講義を通じて、日本の立憲体制について調査。3月2日韓国統監として漢城に入る。4月21日一時帰朝のため漢城を発つ。5月22日首相官邸にて元老会議（満洲問題に関する協議会）。6月伊藤、天皇に、立儲令および附式・皇族就学令・皇室服喪令・皇室喪儀令・國葬令・位階令・華族世襲財産法・華族令施行規則・華族世襲財産法施行規則・皇統譜令施行規則を上奏。同23日韓国に帰任。伊藤帰国の間、各地に騒擾続発。7月1日末松謙澄および勇吉に対して、遺言託す。同2日韓国皇帝に対し日韓協約の遵守を迫り、宮中の近代化に着手。同7日宮禁令を発し、内外人の宮中出入りを取り締まる。同8日教育関係法令（学部直轄学校および公立学校官制、師範学校令、高等学校令、外国语学校令、普通学校令など）制定。10月26日土地家屋証明規則公布。日本人をはじめとする外国人の土地所有が合法化される。11月9日朴済純総理大臣、日本政府に対し間島在住朝鮮人の保護を要請。同21日漢城発ち、鎮海湾を視察していったん帰国。公式令・立儲令・皇族就学令草案を御覽に供す
1907 明治40年	2月1日公式令公布、内閣官制改定。公式令第1条2項に伴い、従前の第4条削除。同11日皇室典範増補を発布。憲法・皇室典範・皇室令を最高規範とし、一般の法律・勅令がそれらに下位する国法体系が成立。3月11日韓国へ向けて出発。海軍、防備隊条例を策定。公式令に従い、首相の副署を要すとの議論。5月13日付寺内正毅宛山県書簡、公式令の総理大臣連署に反対。6月14日韓国内閣官制発表。これに先駆けての日本の改正内閣官制と公式令がモデル。7月ハーグ密使事件。同19日高宗退位。同24日第3次日韓協約締結。韓国秩序維持のため軍隊の派遣を日本政府に要請。同27日保安法（韓国）制定：言論、集会、結社の自由を制限。8月1日韓国軍隊を解散。同10日帰国のため京城

1908
明治41年 発。同19日「軍令に関する件」案上奏、統監府間島派出所開設。9月11日「軍令に関する件」（軍令第1号）裁可。同21日伊藤、山県、大山、公爵に陞爵。10月3日漢城に帰任。皇太子韓国訪問。桂太郎（東洋協会会頭）陪從。12月14日韓国皇太子英親王李垠を伴い帰国。
2月有賀長雄、清国日本憲法視察大臣達寿、李家駒に憲政講義を行う（翌年7月まで。計60回）。4月韓国に帰任（16日漢城着）、新聞紙法（韓国）制定、言論統制強化。8月26日私立学校令、私立学校補助規程、学会令、教科書検定規程制定。11月韓国に帰任。11月14日・15日光緒帝、西太后死去。伊藤、北京政府の威信低下による地方官憲および民衆の秩序弛緩を懸念。12月21日長谷川好道韓国駐劄軍司令官解任される。

1909
明治42年 1月7日伊藤、韓国皇帝に陪從して南韓巡幸に出発。同27日北韓巡幸。伊藤陪從。2月10日帰国の途に就く。4月10日桂首相と小村外相、伊藤を訪問し韓国併合を説得、伊藤承諾。5月21日桂首相に韓國統監辭表を託す。6月14日韓國統監辭任。後任に曾禰荒助。7月1日大礮を発ち漢城に向かう。同6日閣議、韓國併合の方針を決定。同15日仁川から帰朝の途に就く。同22日韓國司法権の日本への委託。8月韓國皇太子を伴い東北・北海道を巡遊。9月4日間島協約成立。間島、正式に中国の領土として認められる。10月26日ハルビンで安重根により暗殺。3月22日楠の記念植樹と社号標の揮毫。

瀧井 一博 著「伊藤 博文」中公新書版の年表に一部追加した。



宮島地図



生れ年と守り本尊





博文位牌（表）

淨土宗報恩寺（山口・萩）



博文位牌（裏）



博文位牌（表）

淨土宗大運寺（神奈川・大磯）



博文位牌（裏）

安政元年（一八五四年）岩惣の初代であります岩国屋惣兵衛は、嚴島神社の管絃祭（旧六月十七日）の前後一ヶ月間に立つ市の賑わいに着目し、奉行所より紅葉谷（現在のもみじ谷公園）開拓の許可を受けました。そしてもみじ川に橋をかけ、溪流に茶屋を設けて道行く人々の憩いの場と致しました。それが岩惣の始まりです。岩惣という名も、この岩国屋惣兵衛の名前にちなんで名付けられております。その後、四季折々に千客万来の賑わいは続き、旅館形式に致しましたのは、明治になつて間もなくでした。

以来多くの方々にご利用をいただいてまいりましたが、始まりから一貫して、岩惣が想い続けておりることは、自然の微かな移り行きに敏感でありますながら、その一つ一つに折り目をつけて、いつの場合にも清々しく、お客様をお迎え申し上げることでございます。自然と人とが融けあつて生まれるさりげないやすらぎに触れていただきたい、この願いは、これから先も変わることはありません。

明治 17・6	有栖川宮威仁親王殿下	明治 29	伊藤博文	昭和 8	齊藤茂吉
明治 23・5	有栖川宮熾仁親王殿下	明治 29	夏目漱石	昭和 13	吉川英治
明治 27・11	皇太子時代の大正天皇陛下	明治 40	後藤新平	昭和 16	山本五十鈴
明治 28・4	昭憲皇太后陛下	明治 40	川上音二郎	昭和 23	ヘレン・A・ケラー
大正 15・5	皇太子時代の昭和天皇陛下	明治 43	森 聰	昭和 48	西條八十
昭和 22・12	昭和天皇陛下	明治 43	東郷平八郎	昭和 50	浜田庄司
昭和 24・4	皇太子時代の今上天皇陛下	昭和 54	眞理子	昭和 54	円地文子
昭和 42・10	常陸宮殿下・妃殿下	昭和 57	尾上松緑	昭和 57	池波正太郎
昭和 53・7	皇太子時代の	大正 10	下田歌子	昭和 58	坂本九
昭和 59・10	皇太子時代の			昭和 58	服部良一
昭和 53・7	今上天皇陛下・皇后陛下				



以上、岩惣に宿泊された方々

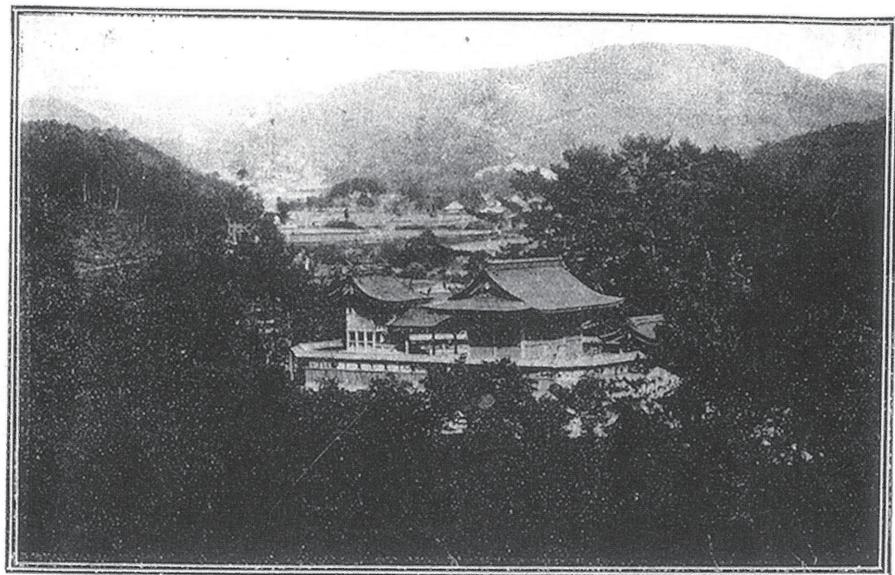
岩惣のはじめ
(岩惣小誌より)



伊藤博文公墓所（東京都西大井）



東京 伊藤博文の御靈（みたまや）一傍には梅子夫人の墓所



熊毛郡（現光市）東荷村の伊藤神社



東荷（つかり）神社に伊藤博文命併祀された（平成）